



平成 25 年 10 月 18 日

## 徳島大学病院では血漿ホモシステイン濃度の上昇が統合失調症の発病リスクを高めることを明らかにしました

血漿ホモシステイン濃度の上昇が、統合失調症のリスクを高める可能性のあることを徳島大学沼田周助講師、大森哲郎教授らの研究グループが多施設臨床研究を行い、明らかにしました。これらの結果は、統合失調症の診断・治療法の開発に役立つことが期待されます。

(報道概要)

統合失調症は罹患率 1%と頻度が高く、WHO によれば長期的な障害をきたす疾患のうちでトップ 10に入る主要疾患であり、思春期から成人早期に発症し、慢性・再発性の経過をたどります。遺伝因子と環境因子が相互に作用して発症すると考えられていますが、その原因についてはいまだよくわかっていません。

グループでは、協力が得られた日本人の統合失調症患者 381名と、統合失調症でない 998名の血漿ホモシステイン濃度を測定、比較し、患者群で有意に高いことを明らかにしました。つづいて、血中ホモシステイン濃度に影響を与えることが知られているメチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素遺伝子の機能性多型に注目し、日本人統合失調症患者およそ 4300人と、統合失調症でないおよそ 6000人を対象に調べ、塩基配列に一部違いのある人は、統合失調症の発症リスクが 1.18倍に高くなることを明らかにしました。さらに、メンデル化無作為解析という「観察疫学研究」と「ゲノム科学研究」を組み合わせた方法を用いて、統合失調症に及ぼす血漿ホモシステイン濃度の影響を推定したところ、血漿ホモシステイン濃度 4.8nmol/ml 上昇あたり統合失調症の発症リスクが 1.15倍に高くなるという結果を得ました。本内容は、Schizophrenia Bulletin に掲載予定です。

統合失調症の診断・治療法の開発に役立つ可能性のある重要な知見が、徳島大学を中心とする多施設臨床研究で明らかになりましたので、この件について報道下さいますようお願いいたします。

大森哲郎 (おおもり・てつろう)

徳島大学病院精神科神経科長 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野・教授)

沼田周助 (ぬまた・しゅうすけ)

徳島大学病院精神科神経科・講師

### お問い合わせ先

部局名 徳島大学病院

責任者 病院長 安井 夏生

担当者 徳島大学病院 精神科神経科長 大森哲郎

電話番号 088-633-7130

